

[2] 生活一般による実践

(1) 生徒の思いを生かしながら力一杯活動することで、

主体性が発揮されることをねらった実践〈1年〉

単元名「ボウリングへ行こう！」

① 取り組みについての基本的な考え

高等部では、社会的自立をめざして一人ひとりの生きる力をつけることを目標に学習を積み重ねている。そのため卒業後の生活を強く意識し、働く力や日々の生活に具体的に生かせる力の育成が中心となる傾向にある。だが、一人ひとりがよりよく生きていくためには、それらの実践的な力を支える動機や意欲、言い換えると生きがいや楽しみ、生活の張りといったものも重要な要素であると思われる。つまり生活の中に自分なりの見通しを持ち、目的意識を持ちながら暮していくことで、実践的な力も有効に発揮されていく。また一方で、日々の学習活動そのものが満足感、充実感の持てるものでなくてはならない。生徒の意欲を引き出す題材選定や支援を工夫すると同時に、生徒の思いをくみ取ったり、考えを引き出したりする場面を学習に多く取り入れることにより、生徒が主体的に取り組めるような配慮が必要となる。

本学級の生徒は、それぞれに思いはあるものの、友だちや教師に対して意見を主張したりするところまでその思いを育てている生徒は少ない。適切な選択肢を多く提供し、さまざまな条件を示しながら、「自分で決める」場面を意図的に設定することで、自分の思いを自分で見つめ、育てていくようにしたい。また、様々な理由からうまく人と関わったり、それぞれの思いをうまく人に伝えることができにくい生徒が多いので、コミュニケーションに関わる力をつけると同時に、教師の適切な支援により、意思疎通の円滑化を図らなくてはならない。そして、明確な指導の意図を持ちながらも生徒の思いに寄り添いながら学習を展開していくことで、個に応じた活動の場を保障すると同時に、友だちや教師との関わりの中で育ちあう人間関係を作っていきたい。

② ねらい

- ・自分なりの見通しを持って、主体的に活動に取り組む。
- ・自分の思いを表し、友だちと協調しながら活動に取り組む。

③ 指導の方針と手だて

この単元における最終的な目標は、「ボウリングを楽しむ」ことである。そのことを常に意識付け、さまざまな活動の一つひとつに意欲的に取り組めるよう配慮したい。そのためには、学習の流れや内容、自分たちで決めたことなどを分かりやすく教室内に掲示したり、日常の会話の中で取り上げるなどして、気持ちをつなげて行きたい。また、一つひとつの活動自体も思い切り取り組めるような場の設定をして行きたいと考える。

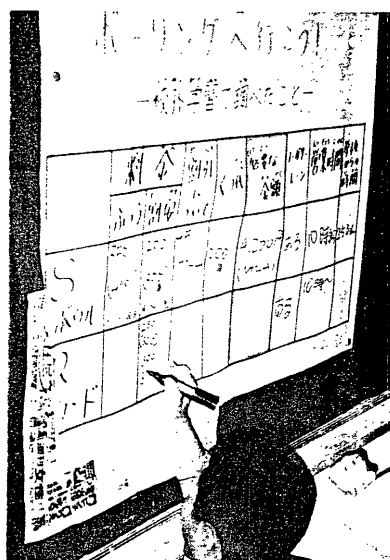
活動の方向性を決めるにあたっては、生徒同士、または生徒と教師の間の受容的な雰囲気作りや、判断の根拠となる条件の分かりやすい提示などにより、「自分たちで考えて決める」活動を大切にしていきたい。

この単元は、生徒の小さなつぶやきを基にして設定したものである。ふとした思いつきからじっくりと出した考えまで、生徒の思いを引き出し、生かして行きたい。

④指導の実際

a 指導計画（全26時間）

- (1) 楽しい計画を立てよう (6時間)
 - 第1次 どこへ行くか決めよう (4)
 - 第2次 経費を計算しよう (2)
- (2) 資金を作ろう (15時間)
 - 第1次 方法を考えよう (6)
 - 第2次 準備をしよう (4)
 - 第3次 販売をしよう (2)
 - 第4次 お金の集計をしよう (2)
 - 第5次 当日の役割を決めよう (1)
- (3) ボウリングに行こう (4時間)
- (4) まとめ (1時間)



どこへ行くか決めよう

b 指導の実際

○ (1)「楽しい計画を立てよう」について

この単元を設定するきっかけは、農園作業の学習にある。学級の農園で春から世話をしてきた菊の花を校内で販売したところ、420円という収益が得られた。このお金の使い途を生徒に投げかけたところ、「楽しいことに使おう」という意見がまとまり、楽しいことの中身を問うと、「みんなでボウリングに行こう」となったのである。鳥取市内にボウリング場は二か所ある。どちらを利用するかは、現地調査をして検討することにした。

まず二か所のボウリング場の名前をあげ、どちらに行ってみたいかを選んだ。次に、自分たちが利用する時、何を判断の基準にしたらよいか、調べる項目を考えた。生徒の中から、料金、営業時間、ノーガーターのレーンがあるかどうか、などの項目が出てきた。2つの班に分かれて校外学習に出かけ、自分で店内の掲示を見たり、お店の方に尋ねたりして調査活動を行った。また、後日電話による補足調査も行なった。

次に、各ボウリング場ごとに全員が利用するのに必要な料金を計算したり、その他の項目について表にまとめたりして、判断の材料を整理した。料金が安いことや、多くの生徒が利用したことがあって親しみやすい「Sポウル」に行くことに決まった。この調査により、平日の昼間は料金が割安になること、たくさんゲームをすると割引があることなども初めて知った生徒が多く、現地調査の意義を感じた。

○ (2)「資金を作ろう」について

	学習活動	支援	生徒の反応と評価
①	資金を得る方法を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習を思い起こし、その中から資金作りの方法を思いつくようにする。 ・身近にある資金作りの素材となるものをさりげなく提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が、本校中学部にいた時の販売の活動を思い出し、発表できた。 ・農園で収穫したさつまいもを素材に食品を作って売るといった意見が出た。

	さつまいもを素材とした食品の中から商品の候補を選ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 売る場面を学習発表会の即売会と決め、商品としての条件を分かり易くする。 ・ 買う立場になって、自分ならどんな品物を買いたいか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 汁物はこぼれるので売りにくい、天ぷらは冷めたらおいしくない、などの意見がでた。 ・ お菓子は、冷めてもおいしいし、売りやすいとの意見にみんなが賛成し、お菓子が商品に決まった。
②	お菓子を作って	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作ったお菓子を校内の先生に食べてもらい意見を聞く場面を設定する。また、家族からも意見を集めて、判断の材料とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞いてきた意見をそのまま自分の意見にしてしまう生徒もいれば、一つのお菓子のいい点、悪い点を比べて考えられる生徒もいた。
③	試食し、商品を		
④	決める。		
⑤		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分、先生、家族の意見を表にまとめ、商品としての利点、そうでない点を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めは、商品を1つに絞ることにこだわっていたが、好みがいろいろあることに気づき、2種類のお菓子を売ることになった。
⑥			

かなりの時間はかかったが、様々な条件や意見を判断の材料として、あれこれ迷いながらも自分たちなりの解答を生み出すことができた。

○ 実践のまとめ

自分たちで考えをめぐらせながら作った商品を学習発表会の場で販売し、目標額以上の収益を上げることができた。また、当日の役割をみんなで分担し、力を合わせてやりとげた充実感も感じることもできた。さらに、予定額以上の収益の中で、お世話になった先生をボウリングに招待しようという意見が出るなど、生徒の中に人との関わりを大切にする気持ちが育ちつつあることを感じている。

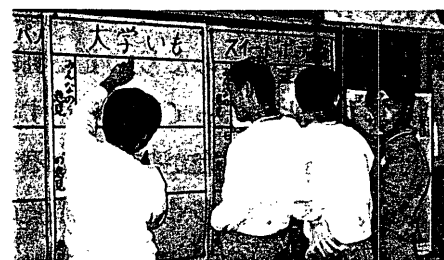
⑤ 反省と今後の課題

自分たちで決めた楽しみに向かってさまざまな学習活動を積み重ね、多くの生徒が目標を達成する満足感を味わうことができた。また、自分たちで調べたことや、人の意見など様々な条件を比べ、迷いながらも活動の内容や方向を決めていくなかで、自己決定する力や選択する力が少しずつ身についてきた。

さらに、生徒同士が協力しあうなかでお互いへの理解も深まり、個に応じた役割分担を自分たちで考えられる部分も増えてきた。

しかし、学習全体を通じて継続的に目標を意識できた生徒は少なく、自分なりの見通しを持ち続けたり、活動相互の関連を把握できるようにするための配慮がもっと工夫されなくてはならない。生徒の思いを生かした学習活動を今後も継続して構成し、主体性を育てる実践を重ねていきたいと考えている。

(田中)



商品を決めよう

- (2) 生徒たちの思いや調べたことを構成劇の発表に生かし、自分たちの手でつくりあげていくことで成就感を味わわせようとした実践〈合同（2年の実践を中心に）〉

題材名「わたしたちの学校」

① 取り組みについての基本的な考え

学習発表会は、本校では運動会と並ぶ2大行事として定着しており、高等部でも、11月は、この発表会へ向けて全力で練習に取り組んできた。

生徒たちは、学習発表会を毎年楽しみにしており、練習にも熱心に取り組む。また、この学習発表会は、かけがえのない思い出として、生徒の心に強く残るようである。

今年度も、生活年齢に応じた高校生らしいもので一人ひとりの力が十分に発揮できる劇を構成し、力一杯演じ、力を合わせてやり遂げた成就感を味わわせたい。今年度は、3年生が生まれた年に本校も誕生したこと、来年度創立20周年という節目を迎えることを機会に「わたしたちの学校」と題して構成劇を発表させたいと考えた。生徒たちの経験したことや調べたこと、また考えたことなどをできるだけ生かしながら内容を組み立て、自分たちでつくり上げていこうとする自覚と喜びを持たせたい。また、自分たちの学校を改めて見つめてみることで、さらに学校を誇りに思う心や仲間を大切にしていこうとする気持ちも育つものと期待している。

② ねらい

- 生徒たちの思いを生かしながら、学習発表会の構成劇に意欲的に取り組ませることにより、成就感を味わわせる。
- 本校のできた頃の様子を自分たちで調べる活動を通して、調べる方法や知る喜びを得させる。
- みんなの前で発表する基本的な態度や技能を高める。

③ 指導の方針と手だて

生徒たちの経験したことや調べたこと、また考えたことなどをできるだけ生かしながら内容を組み立てていく。そのため、11月下旬の発表にむけて、9月の初めにはオリエンテーションを持ち、本校が創立された頃の様子を自分たちで調べる活動に取りかからせる。

そして、調べたことをお互いに発表し合う場も設け、徐々に意識を高めていきたい。さらに、構成劇の発表の中にグループ発表を取り入れ、自分たちの生活の中で紹介したいことや発表の仕方を話し合い、教師も一緒に考えを出し合いながら、つくり上げていく楽しさを味わうようにする。

④ 指導の実際

a 学習の概要

1、オリエンテーション 〈合同〉

- ・学習発表会で、構成劇「わたしたちの学校」（1部「附属養護学校の誕生」2部「現在の附属養護学校」3部「未来へ向かって」）をすることを決定
- ・各学年で本校のできた頃の様子を調べていくことを確認

2、調査活動〈各学年〉

〈1年〉

・開校当時おられたC先生を訪ね、本校のできた頃の様子について聞く。

<2年>

・校歌を作詞して下さったKさんに、本校のできた頃の様子や校歌に込められた思いをインタビューして聞く。

・卒業生全員にアンケートをし、本校にいた頃の楽しかった思い出について聞く。

<3年>

・開校当時おられたY先生に手紙を出し、本校のできた頃の様子について聞く。

3、各学年で調べたことの発表 <合同>

4、構成劇「わたしたちの学校」の練習<合同、グループ>

・調べたことをもとに構成された、1部・3部の呼びかけを、せりふを覚えて大きな声ではっきりと言うようにする。

・2部の「現在の附属養護学校」については、学年を解いたA～Cの縦割りグループでの発表とし、発表内容から台詞まで、自分たちでつくりあげていく。

5、学習発表会で、構成劇「わたしたちの学校」を発表<合同>

6、学習発表会のまとめ<合同>

・自分たちの演技をビデオで見て、感想を発表する。

b 調査活動の実践<2年>

オリエンテーションを受けて、まず、本校のできた頃の様子をどのようにして調べればよいのか、クラスで話し合いを持った。

○Kさんへのインタビュー

まず、校歌を作詞して下さったKさんに手紙を出し、その当時の気持ちを聞いた。

つすも入の花がきれいにさっています。
お元気でお願いしますよ。
私は鳥大でよくつすも入の A 子 です。
おたずねしたことがあっておてがきました。
どうして校歌を作ったか教えてください。
もうでもいろいろお話を聞いてもらいます。
ようこそつすも入ができました。このつすも入をおしえて下さい。
A 子 はどんなことをしてつすも入を作ったか。
つすも入をおしえて下さいます。

A子の手紙

A 子 さん、高年部二年の皆さん、不便りあ
りがとうございました。
今から二十年前は、皆さんの学校は生れ
たんです。そして校歌も生れました。(中略)
けれど、日本海をわたって、広い砂丘を越
えて歩いてくる塔み切った空気が二十年前
と同じです。そして、湖山池の豊かさは、そ
う太陽がさんさん輝いていましてね。そし
て太陽は、君たちみんながよくあられ、み
んはみんな優しい子にあらわれ、心も体も強
子にはあれと、さんさん輝いていましてね。
校歌の最後にある詩、
生き生きと自分の足で歩こうよ 歩こう
よ、のころはどうぞ大きな声をはりあげて
一杯、言葉と書いて下さいね。

Kさんの返事

生徒は、いつも歌っている校歌を作ってくださいましたKさんはどんな方だろうか、どんな気持ちで校歌を作ってくださいましたのだろうか、と楽しみにしていたので、早速返事が届くと顔を輝かせて聞いていた。

この手紙のやり取りがきっかけとなり、Kさんは、後日学校へ来てくださり、生徒たちはいろいろな話を聞くことができた。この時の様子は、構成劇の中でビデオに映し出されることになった。校歌に込められた思いや、Kさんの明るく前向きな生き方を、一人ひとりが自分なりに感じながら、楽しいふれあいのひと時を持つことができた。

○卒業生へのアンケート

Kさんへのインタビューと同時に、今まで卒業していった先輩にいろいろ聞いてみたいという意見が出た。そこで、往復はがきの便利さを教え、聞きたい内容を印刷して郵送し、本校にいた時に楽しかったことや今楽しいことを聞くことにした。

約130名の卒業生に、アンケートの内容を印刷し、宛名を書くことは大変だったが、それぞれ得意な作業を分担して熱心に取り組んでいた。往復はがきを出し、返事が毎日少しずつ届くようになると生徒たちは、喜んで

卒業生の皆さん
お元気でございましょうか。
私たちは高等部2年の生徒です。今、私たちは附属養護学校のことについて、いろいろ調べています。卒業生の皆さんにも学校にいたころ楽しかったことや今楽しいことについて教えていただきました11と思います。
どうぞよろしくお願ひします。
9月28日までに返事ください。

アンケートのお願い

☆附属養護学校にいた時に一番楽しかったことは何ですか。
宿泊学習、運動会、学芸会、校外学習、修学旅行がいちばん楽しかったです。
☆卒業後の今の生活が一番楽しいことは何ですか。
かぞく3人で旅行に行った時、青年学級の宿泊旅行が一番楽しかったです。

返事の例

読んだり、掲示したりするようになった。このアンケートも構成劇の中で、A子・I男・B子が読むことになり、それぞれ自分で選んだアンケートを何度も読む練習をして、当日堂々と発表した。

⑤ 反省と今後の課題

生徒たちは、調査したことやグループで話し合ったことが、構成劇としてでき上がっていく喜びを感じながら当日精いっぱい演技することができ、成就感を持つことができた。調査活動についても、調べる方法や手段を新たに知り、自分たちの手で調べて知る喜びを味わうことができた。これからの様々な活動で、少しでも、自分たちで調べてみよう、自分たちでつくり上げようとする意欲を育てていきたい。 (河田)



Bグループの発表

(3) 自分たちにできる活動を通して、人に喜んでもらう満足感を味わわせることをねらった奉仕活動の実践 〈3年〉

① 取り組みについての基本的な考え

生徒たちの日常生活を考えてみると、学校でも家庭や地域社会でも、どちらかといえば誰かに何かしてもらった経験が多く、自分から誰かの役に立つ活動をして喜んでもらう経験は比較的少ないようである。また、生活する場も学校と家庭がほとんどであり、それ以外に活動の場の拡がりはありません。これが現実である。

社会参加を目前にして、自分たちの活動が誰かの役に立っていると感じる経験は、生徒たちにとって大きな自信になり、励みにもつながる。また、この経験によって得られた喜びは、人との関わりのなかで、いつもしてもらってばかりではなく、誰かのためになる活動がしたいという意欲にもつながっていく。さらに、人との関わりや社会参加について考える絶好の機会になる。

奉仕活動は、普段の生活のなかでは経験できない活動や、人との関わりを経験することができ、生活経験を拡げることができる。さらに、繰り返し活動に取り組むことでパターンができ、どの生徒でも一応の見通しを持ちながら活動をしたり、人と関わったりすることができる。その上に、自分なりの工夫をすることもできるという多くのよさがある。

② ねらい

- ・自分たちにできる活動をするをとおして誰かのためになることをする喜びを感じ、自信を持つ。
- ・人と関わり合うことの喜びを感じ、進んで人と関わろうとしたり、社会参加をしようとする意欲が育つようにする。
- ・人とのやりとりを通して、あいさつやお礼などの基本パターンを身につけ、関わりの力を少しずつ身につけるようにする。



喫茶「しらはま」での奉仕活動

③ 指導の方針と手だて

全体の流れをつかんだり、基本のパターンをまず練習して身につけることで、どの生徒でもある程度のやりとりができ、自分の活動として、見通しと自信を持った取り組みとなるようにする。

関わりの力を高めたり、より大きな喜びを感じるように、基本のパターンを基にしながら、生徒たち一人ひとりが場や相手を意識しながらする工夫や試行錯誤を大切にする。

活動後に良かった点を認めることで次の活動への意欲につなげる。

定期的な学習の積み上げにより自信と見通しを持ち、自主的に活動しようとする態度を育てるとともに、活動に対する責任感を持つようにする。

④ 指導の実際

a 奉仕活動の概要

東堀越地区の牛乳パックの回収と白浜交流センターでの喫茶「しらはま」の2つの活動に取り組んでいる。第2・第4土曜日と行事等の関係でできない時を除いて、土曜日に実

施している。10名の生徒が5名ずつの2班に分かれ、どちらの活動も経験できるように交替で活動している。

b 牛乳パックの回収

東堀越地区に事前に牛乳パック回収のチラシを配って準備しておいてもらったものを回収し、開封処理をするという流れで活動している。

回収にあたっては、東堀越地区を3つに区分し、生徒が2・2・1名の人数に分かれ、それぞれの場所を責任を持って回収するようにしている。グルーピングは、生徒のやりとりの力や学級内での人間関係、地図を見てチェックしながら回収する力等にも配慮した。

最初の回収は、やりとりの課題を確認して指導に役立てたり、次回から自信を持って回収できるように場所の確認を一緒にしたりするために担任外の先生の協力も得て、3名（各グループ1名）の体制で臨み、クラス全員（2班合同）で出かけた。事前にやりとりの基本パターンを練習してから出かけたが、いざ、普段関わらない人を前にすると、何を言っているのか分からず、チラシを渡すだけに終わってしまった生徒が多かった。

課題が見つかるたびに学校でやりとりの練習を積み重ね、最近では大きな声であいさつができた、質問されたことに答えたりと、かなり上手に回収ができるようになってきている。

また、「回収の日は留守になるから玄関に牛乳パックを出しておきます」、「今度はいつ回収にこられますか」といった電話が地区の人からかかってくるなど、自分たちの活動があてにされていると実感できる交流が生まれてきた。また「ご苦労さま」と玄関で待ち受けて声をかけてくださる家が多くなり、「明日は牛乳パックの回収だ。うれしい」「（雨が降っても）待っておられるから絶対に回収にいかんといけん」という声が生徒のなかから聞かれる等、生徒たちはいっそう喜びと意欲を持って活動している。

c 喫茶『しらはま』

白浜交流センターであさひ園をはじめとした障害者福祉センターの方たちを対象に喫茶室（コーヒーのみ）を開いている。次のような5つの流れを作り、分業して取り組んでいる。

コーヒーを準備する ➡ 注文をとる ➡ コーヒーを入れる ➡
➡ カップをさげる ➡ カップを洗って拭く

みんなで分担しながらお客様にコーヒーを入れて出すことをとおして、喜んでくださる様子を目のあたりにしたり、直接話し掛けられたりすることで、自分の活動が喜ばれている・役に立っているという思いを持ちやすい。このことにより、人に喜んでもらう満足感を味わい、自信を持つことができ、次の活動にさらに意欲的に取り組む。また、楽しみに待って来てくださる人との関わりを通して、人と関わり合うことの喜びを感じ、進んで人と関わっていこうという意欲や態度が育つ。

○ 実践例

どの生徒も回数を重ねるごとに活動にも慣れ、人との関わりを喜んだり、自分なりの工夫をしたりする姿が見られてきたが、特に変容が見られたQ男とD子について紹介する。

	個人目標	支援（具体的な手だて）	評 価
Q男（自己客観視の段階）	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりに見通しを持って工夫しながら接客し、少しでも自分から人との関わりを持とうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 慣れるまでに時間がかかり自信がなかなか持てず、取り組みが消極的になりやすいことから、「いらっしゃいませ」「こちらにどうぞ」「50円です」「お待たせしました」等の一連のパターンの言葉を繰り返し練習した。 相手との関係で席を勧めても違うところに座る人、最初にカウンターでお金を払ってしまう人等、パターンどおりにいかず困ったときは教師と一緒にどうしたらよいか考えるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 一連のパターンの言葉を覚えその言葉を使えば接客ができるということから、比較的早く活動に慣れ、自信を持つことができた。見通しと自信が持てたことで、積極的に取り組もうとする姿勢がみえる。 困ったときは相談すればよいという安心感から、自分なりに考えながら、対応しようという積極的な姿勢がみえる。一緒に考えたことを同じような場面で生かしながら次第に自分で対応できることが増えてきつつある。
D子（自己客観視の段階）	<ul style="list-style-type: none"> 自分で工夫をしながら、主体的に取り組もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> コーヒーマーカーでコーヒーを入れたいという強い思いを実現するために、最初のうちは一緒に入れてみようと声かけをし、不安を取り除くようにした。 残りの量やお客さんの数、時間を見ながらコーヒーをわかすことができたときに認める声かけをすることで自信を持たせ、自分なりに工夫しようという意欲を持たせた。 	<ul style="list-style-type: none"> 真っ先に手をあげて立候補をするなど、積極的な態度が見られた。 認められることで自信を持ち自分で工夫をしながら取り組もうとする積極性ができてきた。

⑤ 反省と今後の課題

繰り返しにより、やりとりがスムーズになり、また、お客様との心の交流といったものも次第に生まれてきつつある。生徒たちは相手に喜んでもらえるこの活動をたいへん楽しみにしており、取り組みも意欲的になってきている。活動の喜びが次回の活動への意欲を生み、関わった人との心の交流も深める。今回の取り組みで感じた満足感や喜びを社会参加への意欲や卒業後の人と関わる意欲や力に結びつけていきたい。

（遠藤）